令和6年産 大麦栽培こよみ 高品質で、売れる大麦づくりを目指して！

令和５年９月
●射水市　●ＪＡいみず野
●射水市農業技術者協議会
●高岡農林振興センター

【収量構成の目安と品質目標】

収量	400kg/10a
穂数	450本/㎡
一穂粒数	30粒
2.3㎜以上	85%
千粒重	35g
硝子率	40%以下

■目標苗立数と播種量の目安

播種時期	目標苗立数（本/㎡）	播種量の目安（10a当たり） ドリル播
9月26日～	140	6.0kg
10月上旬	150	6.5kg
10月中旬	200	8.5kg

※ドリル播の播種深度は３㎝程度とする。
※10月上旬まで播き終えましょう。
※播種量は、苗立率80％で算出。

■施肥の目安（ドリル播、10a当たり）

施用時期	資材名・施用量
耕起前	土カパワー 100～150kg 発酵ケイフン 100～150kg
播種時	エコ大麦44号 40～45kg

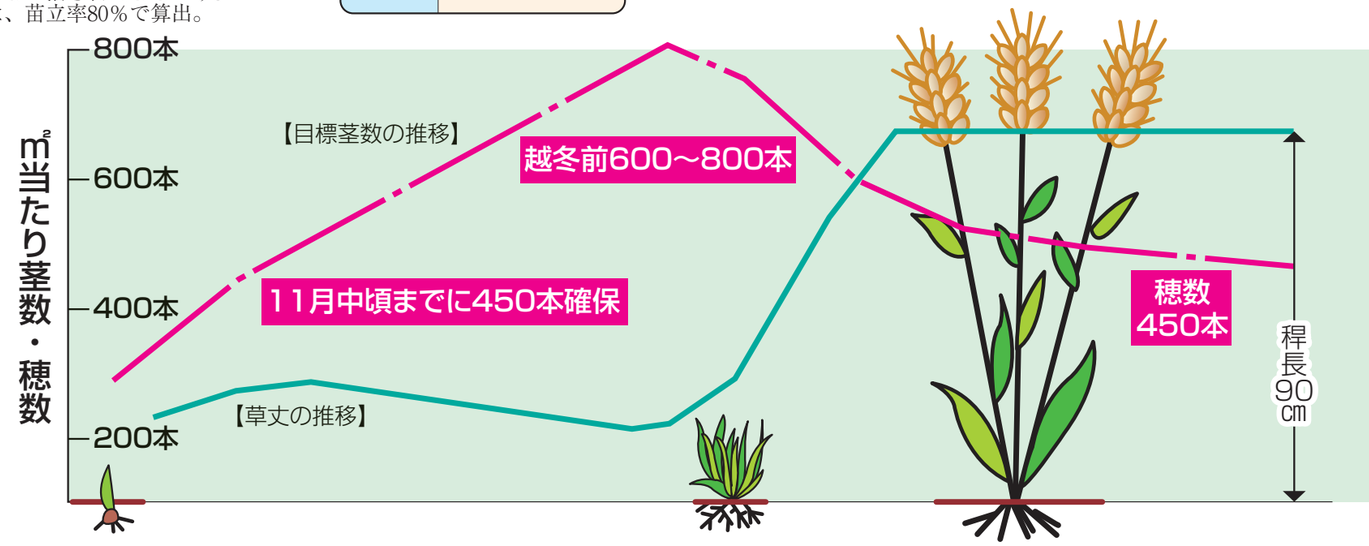
■除草剤

散布時期	カラスノエンドウが多い場合	対象雑草	薬剤名	10a当たり	散布方法
播種後～麦２葉期（雑草発生前～イネ科雑草１葉期まで）	播種２週間後	１年生雑草 カラスノエンドウ カズノコグサ	リベレーターG	4～5kg	全面土壌散布
播種後～麦３葉期（雑草発生前～イネ科雑草１葉期まで）	播種３週間後	１年生雑草 カラスノエンドウ カズノコグサ	リベレーターフロアブル	60～80㎖（水100ℓに希釈）	雑草茎葉散布又は、全面土壌散布
大麦節間伸長開始期まで（広葉雑草２～４葉期）収穫45日前まで		１年生広葉雑草	エコパートフロアブル	50～100㎖（水100ℓに希釈）	雑草茎葉散布又は、全面散布

除草剤の効果を高めるため、砕土率を高めましょう。

初期生育確保のためのポイント

1. **排水対策を徹底**し、砕土率を高め、苗立率を向上させる。
2. 播種時期に応じた適正播種量を厳守。
3. 基準基肥量を守る。



【刈取りの目安】

・茎葉と子実の殆どが黄化
・屈曲した穂の割合が50%程度

出穂後44日頃
子実水分23%

栽培管理のポイント

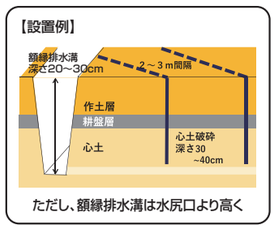
8月下旬～9月上旬	9月中旬～下旬	10月上旬～	11～12月	積雪期間	3月	4月	5月	6月
播種前の排水対策は確実に		耕起は丁寧に　適正播種量で苗立ち確保				防除の徹底	適期刈取りで高品質麦に	雑草管理　（次年度産大麦）排水対策

播種前の排水対策は確実に

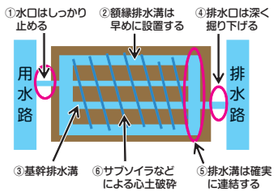
●枕地に水たまりができないように、前作水稲では田面が乾いた状況で収穫する。

排水対策の徹底

●稲刈後直ちに額縁排水溝や基幹排水溝の設置、心土破砕による排水対策を実施する。



稲刈り後直ちに排水溝を設置



耕起は丁寧に

土づくり

●土壌pH６以上を目標に耕起前に「土カパワー」を100～150kg／10ａ施用する。

消毒済種子の使用（農協購入種子は消毒済み）

●消毒済種子を使用し、病害の発生を防止する。

適正播種量で苗立ち確保

施肥・耕起・砕土・作溝・播種

●耕起前に「発酵ケイフン」を100～150kg／10ａ施用する。

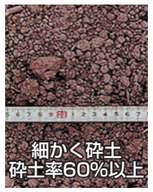
●一連の作業は1日で行う。

・耕起作業は土が乾いた状態で行い、砕土率を60％以上に高める。

・基肥量や播種量は、播種時期に応じて調整する。

・播種機にサイドリッジャを付け排水を促す。

・雑草の多いほ場は、除草剤を散布する。



防除の徹底

排水溝の手直し

●排水溝は随時手直し。

・湿害を回避する為、ほ場に水がたまらないよう排水溝は随時手直し。

赤かび病の防除（遅れると防除効果が低下）

●１回目…穂揃期（開花始め）

・トップジンＭ水和剤1000倍　150ﾘｯﾄﾙ／10ａ　又は

・トップジンＭ粉剤ＤＬ　４kg／10ａ　又は

・ワークアップフロアブル16倍　0.8ﾘｯﾄﾙ／10ａ

・ワークアップフロアブル2000倍液　150ﾘｯﾄﾙ／10ａ　又は

・ワークアップ粉剤ＤＬ　３kg／10ａ　又は

●２回目…１回目散布から１週間後

・トップジンＭゾル８倍　0.8ﾘｯﾄﾙ／10ａ

適期刈取りで高品質麦に

刈取り調製

●異種穀粒の混入を防止するためにコンバインの清掃を徹底する。

●収穫前に、ほ場内からカラスノエンドウ等を除去する。

●刈取りの目安は、屈曲した穂の割合が50％程度。

・出穂後44日頃

・子実水分23％から

雑草管理

●収穫後のほ場を放置するとカメムシの発生源となるので、大豆や園芸作物・緑肥等の作付に努める。

（次年度産大麦）排水対策

●早生あとの作付を基本とする。

●コシヒカリあとに作付する場合、稲刈り後の土壌が速やかに乾くよう、水稲作付期間の溝掘りとその手直しを徹底する。

大麦あとを有効活用し、大豆・園芸作物作付による収益確保、緑肥作付による土づくりを行いましょう。